3　防災活動いろいろ

【地域での取り組み】 地域では防災に関するさまざまな活動が実施されています

世代をつなぐ地域防災訓練

避難所開設運営訓練の様子①

避難所開設運営訓練の様子②

防災会議

子ども遠足（防災学習）の様子

地域とマンション管理組合の合同防災セミナー

【行政のサポート】 地域で防災に取り組む際には、行政からの支援を受けることができます。

その① 防災出張講座

浪速区役所は、防災に関する資料提供や勉強会の開催をサポートしています。数人のグループ活動の場や管理組合へ講師を派遣することもでき、ご近所づきあいのきっかけとして活用いただけます。
ご興味のある方は、浪速区まちづくりセンターまでご相談ください。

マンション集会所での防災勉強会

その② 防災マップ配布

浪速区内の避難場所などを案内する地図です。
地震が起きた時の行動のしかたや災害時連絡先などが載っています。
地震への備えとして、避難場所や道順を確認しておきましょう。

さらに詳しいアンケート結果は浪速区まちづくりセンターで報告書をご用意しています。ご希望の方は下記までお問い合わせ下さい。

浪速区まちづくりセンター
@浪速区役所６階 602
open hour 9:00～17:30 土日祝休 年末年始休
☎ 06-6649-0345（FAX兼用）
mcnaniwa@gmail.com
facebook 7289ラボ（なにわ区ラボ）
http://mcnaniwa.jimdo.com/
ホームページでも案内しています
浪速区まちづくりセンター 検索

7289 Labo マンション アンケート

集計結果【概要版・幸町】

■ はじめに

浪速区まちづくりセンターでは、2015 年８月～９月にかけて、区内のマンションにお住まいの方を対象にした住民アンケートを実施しました。その結果、幸町では６棟のマンションで調査することができました。
集計結果がまとまりましたので、概要についてお知らせいたします。

■ 調査について

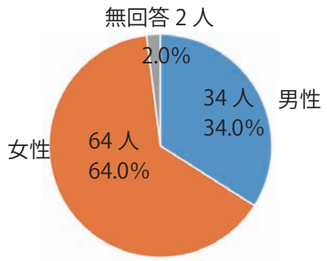
浪速区に暮らす住民の方々の声をお聞きし、今後のまちづくりのヒントをさぐろうと、住宅の約９割が共同住宅という地域の特性に着目。マンションでの暮らしや住民とのつながり、地域活動への関心や参加の実態などをお聞きするためにアンケート調査を実施しました。

■ 調査の概要

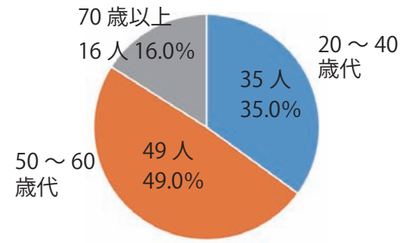
・調査方法：ポスティングによる配付
（マンション１階ロビーまたは管理員室前に箱を設置して回収）
・調査地点：幸町地域の分譲マンション６棟
・調査期間：2015 年８月～９月
・配付数：356 通
・有効回答数：100 通
・有効回答率：28.1%

■ こんな人が答えてくれました

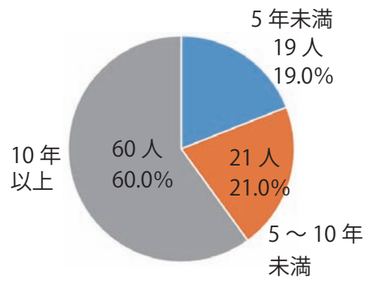
（1）性別



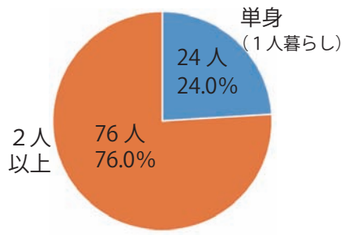
（2）年齢



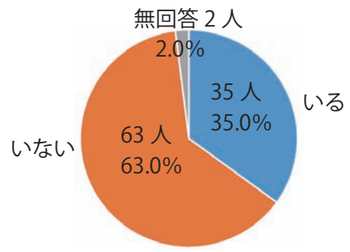
（3）居住年数



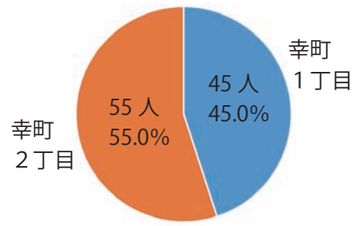
（4）家族構成



（5）子ども（20 歳未満）の有無

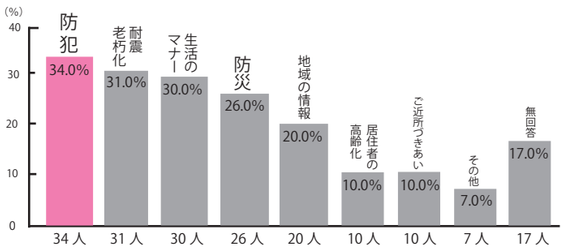


（6）地域



1 安全・安心への関心が高い結果に

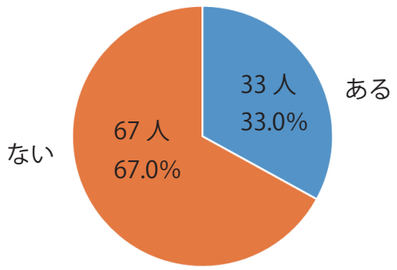
Q. 今、お住まいのマンションで気になっていることは何ですか？（複数回答）



A.「防犯」が第１位

暮らしの安全に直結する防犯への関心がもっとも高い結果になりました。「安心」が長く暮らすための条件のひとつであり、そのためには日頃のご近所づきあいが大切。普段から顔見知りでいることが、地域の防犯につながります。

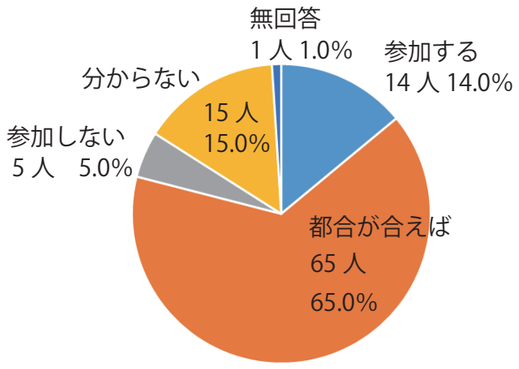
Q. マンションや地域の防災訓練に参加したことはありますか？



A.「ない」が７割

居住年数が長くなるにつれて、参加経験のある回答者が増える傾向にありました。逆に、子育て世代や土地勘があまりない居住５年未満の世帯では情報がいきわたっていない傾向が見られ、防災訓練への参加率が低くなっています。

Q. 地域やマンションの集会所などでは、行政の支援を受けて防災勉強会を行っています。お住まいのマンションで開催されたら参加しますか？

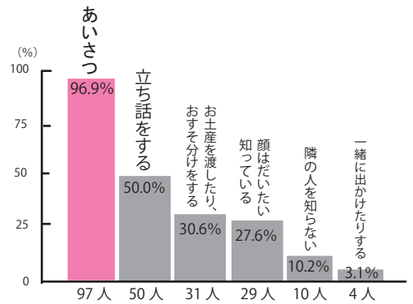


A. ８割は参加意思あり

今後発生が予想される南海トラフ大地震と、それに伴う津波により、浪速区でも大きな被害が予想されています。みなさんの備えは万全でしょうか？いざという時には住民同士での助け合いが不可欠です。
また、「都合が合えば」参加したいというキモチにどう応えるか。参加しやすい工夫を探っていく必要がありそうです。

2 マンション住民も「住民のつながりは必要」と感じています

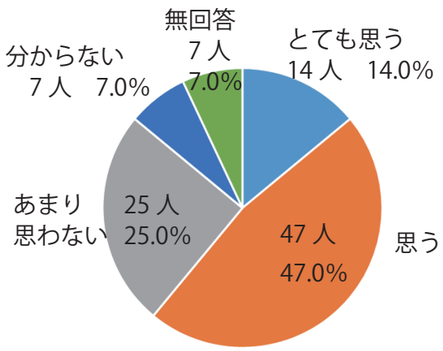
Q. お住まいのマンションでご近所づきあいしてますか？（複数回答）



A.「あいさつする」が第１位

９割が「あいさつ」と回答しており、家族構成を問わず高い傾向にありました。単身世帯よりも２人以上の家族がいる世帯のほうがコミュニケーションが活発なようです。

Q. マンション内や、マンション周辺の住民とのつながりは必要だと思いますか？



A. ６割が「必要」だと考えています

一般的には、「マンションに暮らす人は地域への関心がうすい」といわれています。普段からのおつきあいを通して、人間関係をつくり、困った時には助け合うという考え方は住宅の形態には関係ないということが分かりました。建物や階が違うなど知り合う機会が少ないなかで、つながりづくりのアイデアが必要です。

Q. どんな場面で、住民とのつながりは必要だと思いますか？

防犯 防災
- 災害発生時、防犯等（50 ～ 60 歳代男性）
- あまり知らない人がいると不安（50 ～ 60 歳代女性）

たすけあい
- 何かあった時に住民のつながりがあれば、助けたり助けられたりできる（50 ～ 60 歳代女性）
- 自然災害などあった時、どういう人が住んでいるのか知っておいたほうがよいと思う。知っておいてもらいたいと思う（50 ～ 60 歳代女性）

見守り
- 子どもがいるので、顔見知りをつくっておきたい（20 ～ 40 歳代女性）
- 子どもが１人で出歩くようになると、たくさんの知り合いの目があったほうが安全だと思う（20 ～ 40 歳代女性）

交流 情報交換
- お互い快適に過ごせるようにするため（50 ～ 60 歳代女性）
- 子どもがいるので、近所にどんな人が住んでいるのか気になります。学校のこととか教えてもらえたら助かります（20 ～ 40 歳代女性）